

# 黄体ホルモンによる循環器奇形発生に関する研究

東芝中央病院 森山 豊

## はじめに

近年妊娠初期における黄体ホルモン剤の投与によって胎児に大血管転位症等の循環器奇形が発生するという報告が散見され、そのため欧米諸国の一部では妊婦に対する黄体ホルモン剤の使用規制も実施されている。わが国では黄体ホルモン剤は流産防止剤として妊娠中にかなり広く用いられているため、循環器奇形発生との間に因果関係があることが事実とすれば、小児保健上憂慮すべき問題となる。

そこでこの問題について早急に事実を明かにし、その対策を検討するために、この方面の専門家8名の協力を得て、種々の角度から問題への接近を試み、次の成績を得た。

協力者は次の通りである。

慶応大学医学部産婦人科学教室

教授 飯塚 理 八

東京大学附属病院分院産婦人科  
助教授 小林 拓 郎  
東京大学医学部産科婦人科学教室  
教授 坂元 正 一  
東京女子大学心臓血圧研究所  
教授 高尾 篤 良  
国立小児病院 松尾 準 雄  
自治医科大学産科婦人科学教室  
教授 松本 清 一  
聖路加国際病院小児科  
山本 高次郎  
京都大学医学部解剖学教室  
教授 西村 秀 雄

## 1. 黄体ホルモン剤に催心奇形作用があるか否かに関する臨床病理学的研究

東京大学医学部産科婦人科学教室

坂元 正 一 水野 正 彦  
是 沢 光 彦

## 方 法

産科において、児を取り扱うのは、新生児期の始めの7日足らずの短時間にすぎず、この間に、先天性心奇形の発見される場合は、必ずしも多くない。

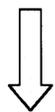
そこでわれわれは、昭和36年より昭和49年まで14年間に、当科で取り扱った分娩13,762例のうち、死産又は、新生児死亡で、剖検に処せられた児157例の病理所見を調べ、心奇形の有

無を調査した。心奇形の存在する児に関して、その母体の妊娠中のホルモン剤使用歴の有無、及びその量、使用した妊娠週数、種類を調べた。

対照には以下の2つをとった。

対照1は、心奇形を有する剖検例の次に出産した児に関して、児の異常、母体の妊娠中の黄体ホルモン剤使用歴、およびその量、使用した妊娠週数、種類を調べた。

対照2は、心奇形を有する剖検例の次に剖検に



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

近年妊娠初期における黄体ホルモン剤の投与によって胎児に大血管転位症等の循環器奇形が発生するという報告が散見され,そのため欧米諸国の一部では妊婦に対する黄体ホルモン剤の使用規制も実施されている。わが国では黄体ホルモン剤は流産防止剤として妊娠中にかなり広く用いられているため,循環器奇形発生との間に因果関係があることが事実とすれば,小児保健上憂慮すべき問題となる。